

平成23年 6月10日

平成22年中における山岳遭難の概況

警察庁生活安全局地域課

1 概要

(1) 全国の発生状況

平成22年中の山岳遭難は

発生件数 1,942件 (前年対比+266件)

遭難者数 2,396人 (前年対比+311人)

うち死者・行方不明者

294人 (前年対比-23人)

負傷者 832人 (前年対比+162人)

無事救助 1,270人 (前年対比+172人)

であり、発生件数、遭難者数は、昭和36年以降、過去最高を示した。

このうち、40歳以上の者は、

遭難者数 1,821人 (前年対比+219人)

うち死者・行方不明者

265人 (前年対比-19人)

負傷者 677人 (前年対比+116人)

無事救助 879人 (前年対比+122人)

であった。

過去10年間の山岳遭難発生状況を見ると増加傾向にあり、平成13年と比較すると

発生件数 +722件 (+59.2%)

遭難者数 +926人 (+63.0%)

うち死者・行方不明者

+51人 (+21.0%)

負傷者 +217人 (+35.3%)

無事救出 +658人 (+107.5%)

となっている。

(2) 都道府県別山岳遭難発生状況

遭難発生件数を都道府県別に見ると

長野県 213件

北海道 123件

東京都 122件

の順であった。

2 山岳遭難の特徴と未然防止対策

(1) 目的別・態様別

山岳遭難を目的別にみると、登山(ハイキング、スキー登山、沢登り、岩登りを含む)、山菜・茸取りが多く全体の90.7%を占めている。また、態様別にみると、道迷い、滑落、転倒が多く全体の70.2%を占めている。

(2) 年齢層別

40歳以上の遭難者は1,821人で全遭難者の76.0%を占めているが、中でも55歳以上の遭難者が多く、全遭難者の59.9%を占めている。

(3) 単独登山者

単独登山者の山岳遭難は787件と、前年より増加した。単独遭難者の死者・行方不明者は170人で、全単独遭難者の21.6%を占めているが、複数(2人以上)登山者における死者・行方不明者の割合(7.7%)と比較すると約2倍となっている。

(4) 遭難件数に占める通信手段

全遭難件数の63.3%が遭難現場から通信手段(携帯電話、無線(アマチュア無線を含む。))を使用し、救助を要請している。

今後も、携帯電話による救助要請が増加することが予想されるが、携帯電話は通話エリア内での万が一の通話手段としては有効であるが、多くの山岳では通話エリアが限られることやバッテリーの残量に注意が必要である。

(5) 未然防止対策

山岳遭難の多くは、ちょっとした不注意や安易な行動がもとで発生していることから、遭難を未然に防ぐため、登山に当たっては、以下のような点に留意が必要である。

登山計画の作成、提出

気象条件、装備、食料、体力、体調、登山の経験と山岳の選び方、登山コース、日程等に配慮して、余裕のある、安全な登山計画をたてる。

単独登山はできるだけ避け、信頼できるリーダーを中心とした複数人による登山に努める。

また、作成した登山計画書は、家庭や職場、登山口の登山届ポストなどに提出しておく。

危険箇所の把握

計画を立てるとき、滑落等の危険箇所を事前によく調べる。

状況の的確な判断

視界不良・体調不良時等には、滑落、道迷い等のおそれがあることから、状況を的確に判断して早めに登山を中止するよう努める。

滑落・転落防止

滑りにくい登山靴等の着用、ストック等の装備を有効に使用するとともに、気を緩めることなく常に慎重な行動を心がける。

道迷い防止

地図とコンパス等を有効に活用して、常に、自分の位置を確認するよう心掛ける。

表1 概要

		平成22年		平成21年		増減	
		総数	うち中高年	総数	うち中高年	総数	うち中高年
発生件数(件)		1,942		1,676		+ 266	
遭難者(人)	死者	262	238	269	237	- 7	+ 1
	死者・不明者	32	27	48	47	- 16	- 20
	小計	294	265	317	284	- 23	- 19
	負傷者	832	677	670	561	+ 162	+ 116
	無事救出	1,270	879	1,098	757	+ 172	+ 122
	合計	2,396	1,821	2,085	1,602	+ 311	+ 219

注: 中高年とは、40歳以上の者を内数で示す。

表2 過去10年間の山岳遭難発生状況

	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22
発生件数(件)	1,220	1,348	1,358	1,321	1,382	1,417	1,484	1,631	1,676	1,942
遭難者数	1,470	1,631	1,666	1,609	1,684	1,853	1,808	1,933	2,085	2,396
うち中高年	1,127	1,223	1,298	1,309	1,372	1,507	1,439	1,567	1,602	1,821
死者・不明者	243	242	230	267	273	278	259	281	317	294
うち中高年	221	219	213	249	244	251	237	256	284	265

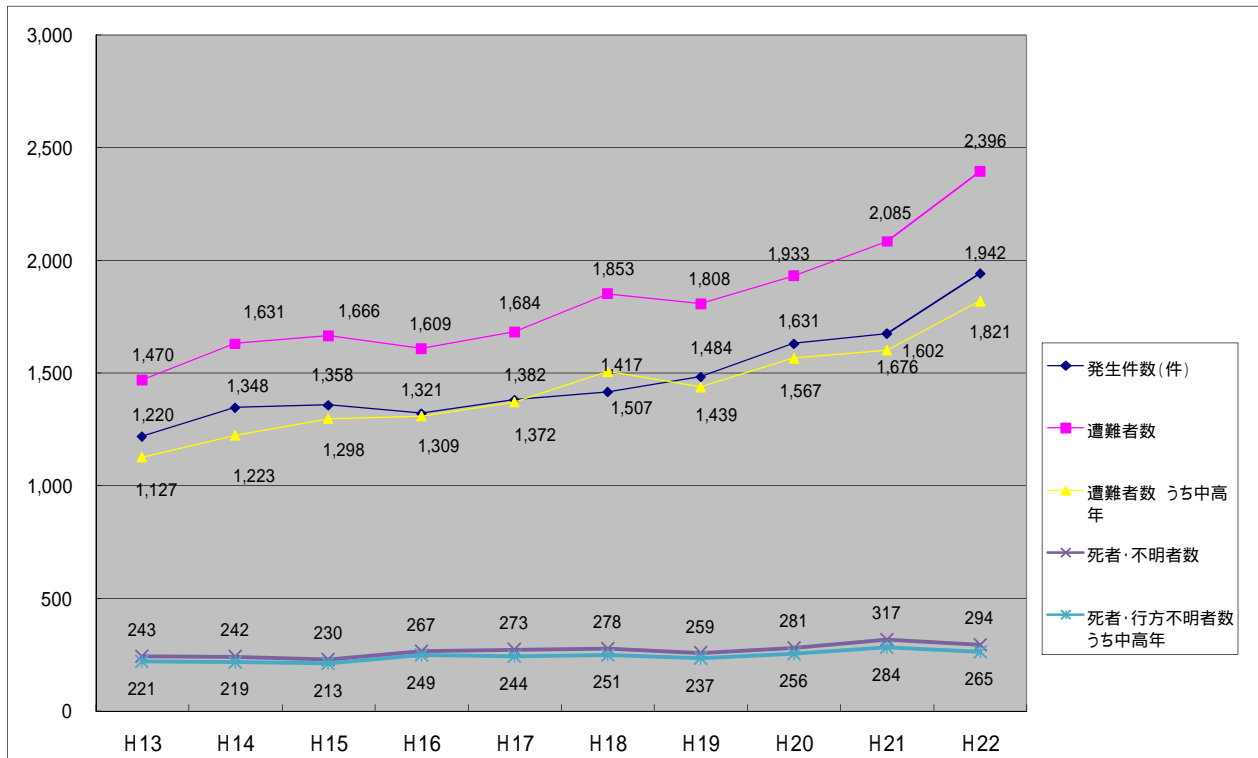


表3 都道府県別山岳遭難発生状況

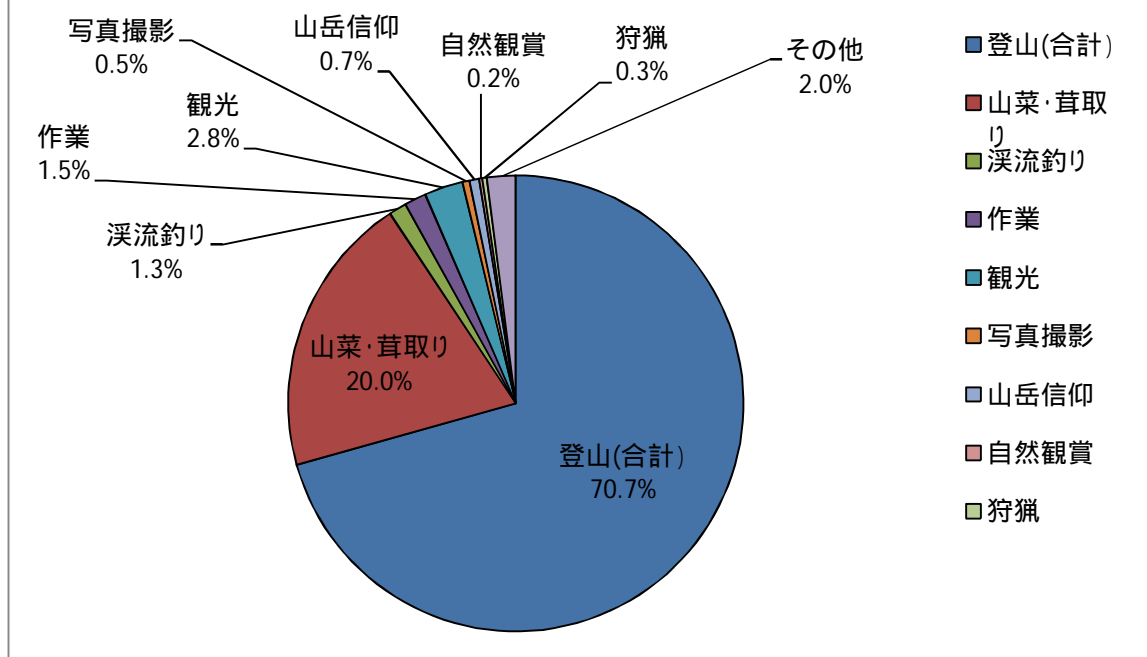
(平成22年中)

都道府県	発生件数	遭難者総数	死者	行方不明	負傷者	無事救出
北海道	123	158	15	3	24	116
青森県	62	72	4	3	20	45
岩手県	61	77	6	0	27	44
宮城県	19	24	2	0	6	16
秋田県	83	92	16	4	15	57
山形県	85	95	11	1	41	42
福島県	66	77	18	1	20	38
東京都	122	176	6	2	82	86
茨城県	10	11	0	0	8	3
栃木県	31	35	9	1	18	7
群馬県	65	71	12	0	32	27
埼玉県	60	104	10	0	30	64
千葉県	5	8	0	0	0	8
神奈川県	62	79	1	1	30	47
新潟県	87	97	13	0	39	45
山梨県	100	111	22	1	55	33
長野県	213	231	39	5	122	65
静岡県	78	98	9	0	29	60
富山県	113	134	12	0	63	59
石川県	16	19	8	0	6	5
福井県	13	13	5	0	3	5
岐阜県	67	84	8	3	33	40
愛知県	8	10	0	0	1	9
三重県	46	59	6	0	21	32
滋賀県	33	46	3	0	9	34
京都府	17	20	2	0	0	18
大阪府	9	9	1	0	6	2
兵庫県	81	118	5	0	24	89
奈良県	25	29	8	1	7	13
和歌山県	6	10	2	0	0	8
鳥取県	18	18	3	1	7	7
島根県	6	6	1	1	3	1
岡山県	3	3	0	0	0	3
広島県	12	20	0	0	2	18
山口県	4	5	0	0	0	5
徳島県	3	5	0	0	2	3
香川県	2	2	1	0	1	0
愛媛県	22	30	0	0	8	22
高知県	4	6	0	1	0	5
福岡県	11	16	0	0	3	13
佐賀県	4	7	0	0	1	6
長崎県	3	6	0	0	0	6
熊本県	7	8	1	0	4	3
大分県	38	46	2	0	18	26
宮崎県	19	24	0	1	5	18
鹿児島県	20	27	1	2	7	17
沖縄県	0	0	0	0	0	0
合計	1,942	2,396	262	32	832	1,270

表4 目的別山岳遭難者数

	平成22年		平成21年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	1,386	57.8%	1,165	55.9%	+ 221	19.0%
	ハイキング	188	7.8%	121	5.8%	+ 67	55.4%
	スキー登山	63	2.6%	56	2.7%	+ 7	12.5%
	沢登り	34	1.4%	33	1.6%	+ 1	3.0%
	岩登り	22	0.9%	20	1.0%	+ 2	10.0%
	登山(合計)	1,693	70.7%	1,395	66.9%	+ 298	21.4%
山菜・茸取り	480	20.0%	479	23.0%	+ 1	0.2%	
溪流釣り	30	1.3%	27	1.3%	+ 3	11.1%	
作業	37	1.5%	40	1.9%	- 3	-7.5%	
観光	66	2.8%	63	3.0%	+ 3	4.8%	
写真撮影	12	0.5%	27	1.3%	- 15	-55.6%	
山岳信仰	16	0.7%	18	0.9%	- 2	-11.1%	
自然観賞	5	0.2%	2	0.1%	+ 3	150.0%	
狩猟	8	0.3%	3	0.1%	+ 5	166.7%	
その他	49	2.0%	31	1.5%	+ 18	58.1%	
合計(人)	2,396		2,085		+ 311	14.9%	

平成22年 目的別山岳遭難者数の割合



目的別山岳遭難者数の比較(前年対比)

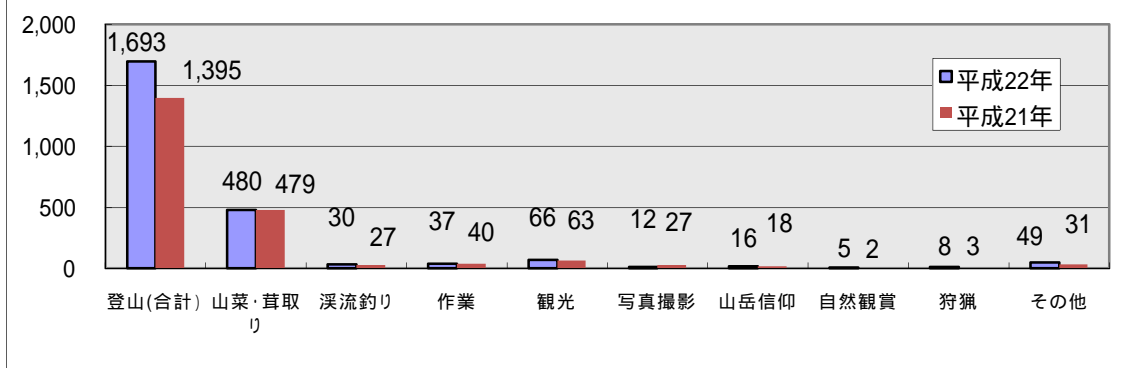
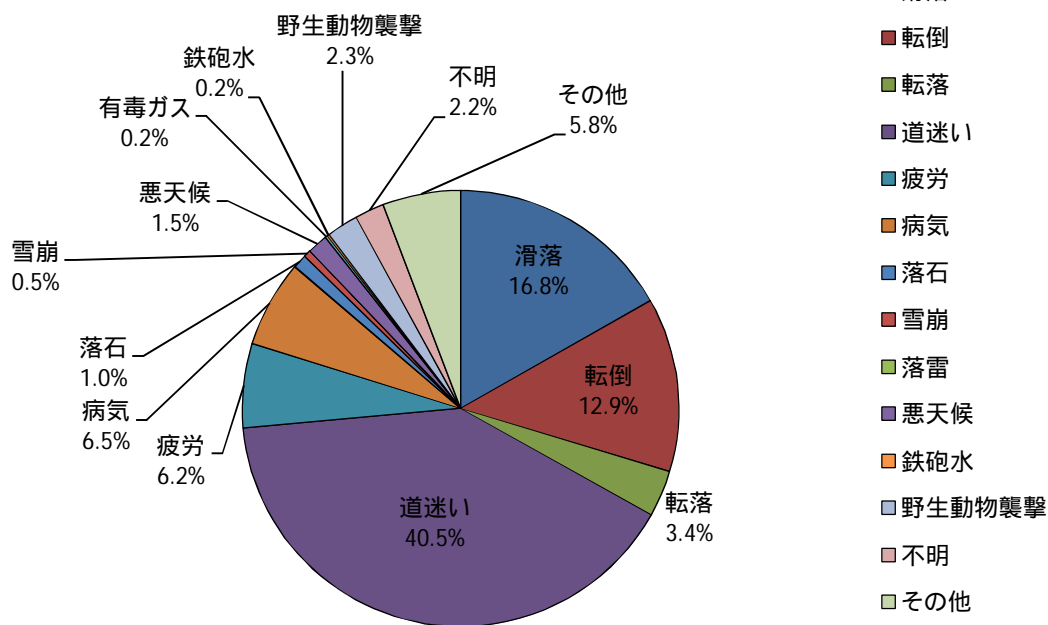


表5 態様別山岳遭難者数

	平成22年		平成21年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	402	16.8%	325	15.6%	+ 77	23.7%
転 倒	309	12.9%	259	12.4%	+ 50	19.3%
転 落	82	3.4%	84	4.0%	- 2	-2.4%
道 迷 い	970	40.5%	906	43.5%	+ 64	7.1%
疲 労	149	6.2%	129	6.2%	+ 20	15.5%
病 気	155	6.5%	146	7.0%	+ 9	6.2%
落 石	25	1.0%	12	0.6%	+ 13	108.3%
雪 崩	13	0.5%	13	0.6%	± 0	0.0%
落 雷	0	0.0%	1	0.0%	- 1	-100.0%
悪 天 候	36	1.5%	45	2.2%	- 9	-20.0%
有 毒 ガ ス	4	0.2%	0	0.0%	+ 4	-
鉄 砲 水	4	0.2%	2	0.1%	+ 2	100.0%
野 生 動 物 襲 撃	56	2.3%	39	1.9%	+ 17	43.6%
不 明	52	2.2%	66	3.2%	- 14	-21.2%
そ の 他	139	5.8%	58	2.8%	+ 81	139.7%
合 計	2,396		2,085		+ 311	14.9%

平成22年 態様別山岳遭難者数の割合



態様別山岳遭難者数の比較(前年対比)

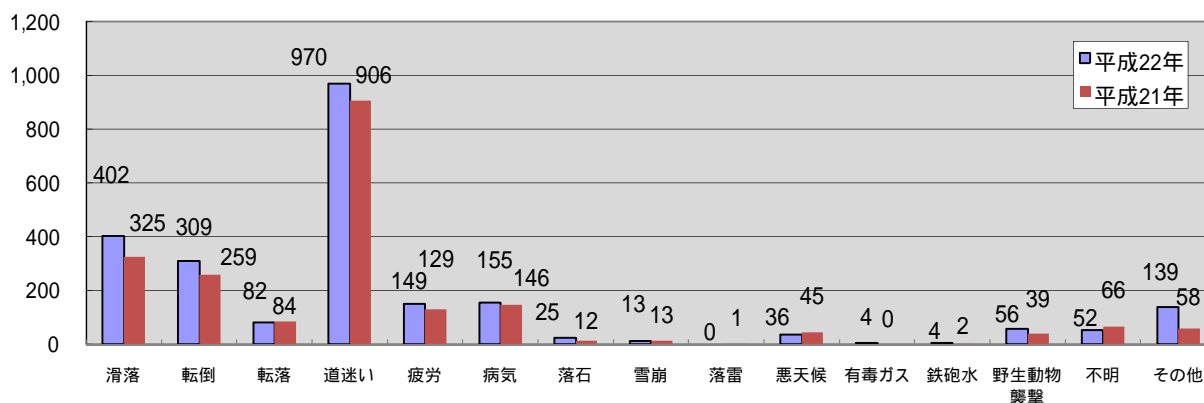
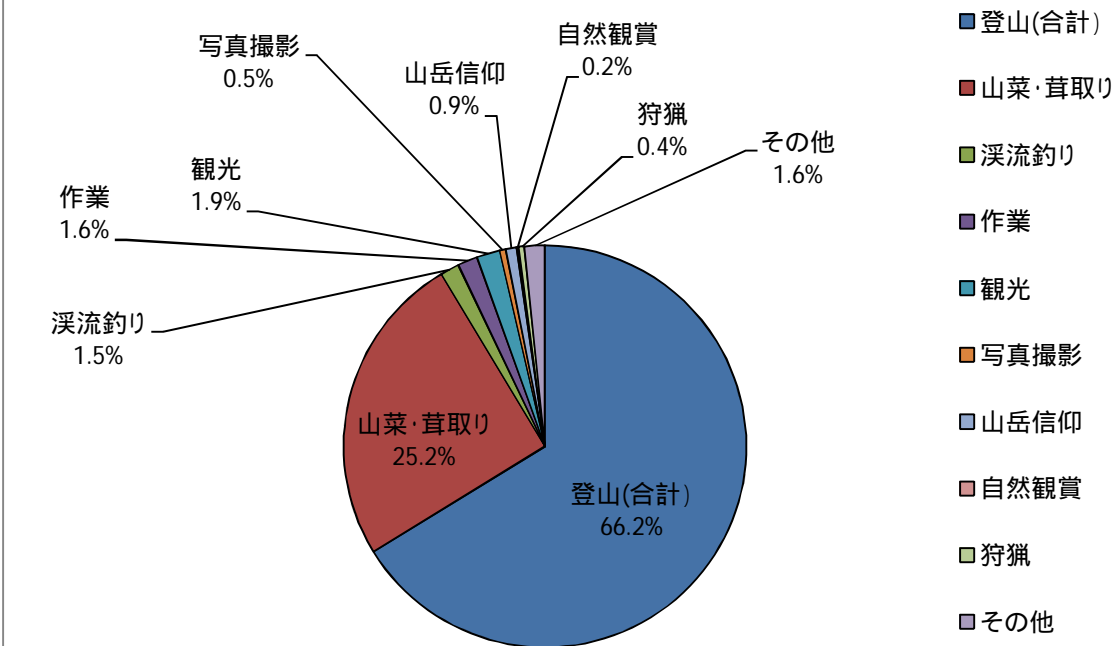


表6 目的別山岳遭難者数(中高年)

	平成22年		平成21年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
登山	登山	1,022	56.1%	838	52.3%	+ 184	22.0%
	ハイキング	120	6.6%	94	5.9%	+ 26	27.7%
	スキー登山	32	1.8%	29	1.8%	+ 3	10.3%
	沢登り	18	1.0%	19	1.2%	- 1	-5.3%
	岩登り	14	0.8%	16	1.0%	- 2	-12.5%
	登山(合計)	1,206	66.2%	996	62.2%	+ 210	21.1%
	山菜・茸取り	458	25.2%	459	28.7%	- 1	-0.2%
	溪流釣り	28	1.5%	22	1.4%	+ 6	27.3%
	作業	29	1.6%	31	1.9%	- 2	-6.5%
	観光	34	1.9%	31	1.9%	+ 3	9.7%
	写真撮影	9	0.5%	21	1.3%	- 12	-57.1%
	山岳信仰	16	0.9%	16	1.0%	± 0	0.0%
	自然観賞	3	0.2%	2	0.1%	+ 1	50.0%
	狩猟	8	0.4%	3	0.2%	+ 5	166.7%
	その他	30	1.6%	21	1.3%	+ 9	42.9%
	合計(人)	1,821		1,602		+ 219	13.7%

注: 中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成22年 目的別山岳遭難者数(中高年)の割合



目的別山岳遭難者数(中高年)の比較(前年対比)

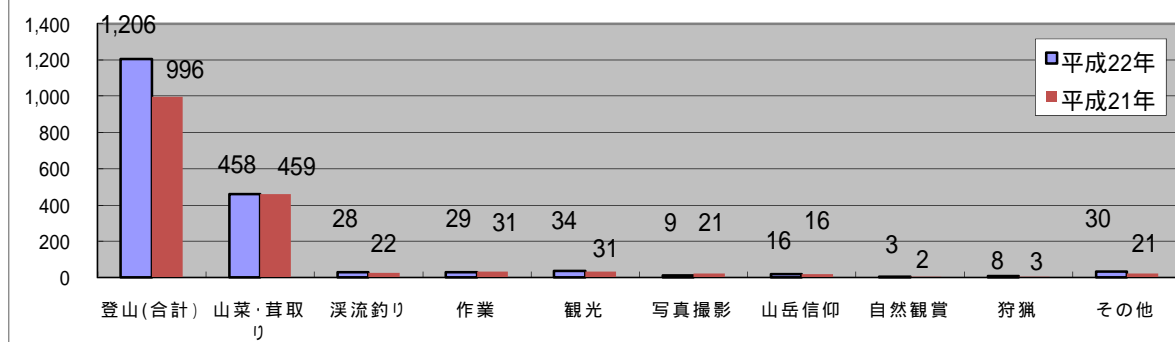
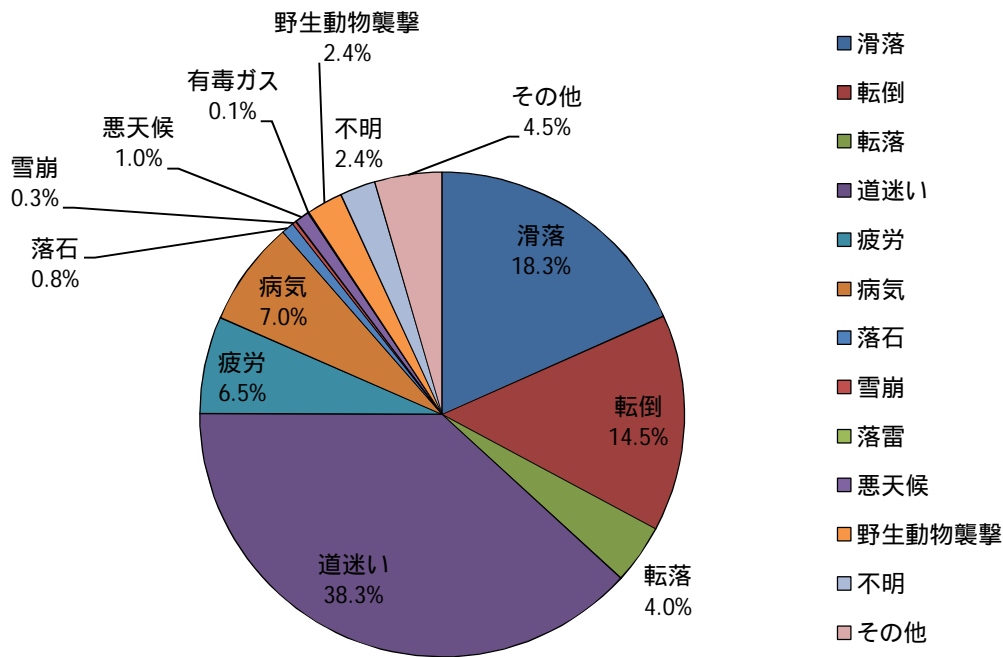


表7 態様別山岳遭難者数(中高年)

	平成22年		平成21年		増減	
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
滑 落	334	18.3%	269	16.8%	+ 65	24.2%
転 倒	264	14.5%	224	14.0%	+ 40	17.9%
転 落	72	4.0%	74	4.6%	- 2	-2.7%
道 迷 い	697	38.3%	630	39.3%	+ 67	10.6%
疲 労	118	6.5%	91	5.7%	+ 27	29.7%
病 気	128	7.0%	118	7.4%	+ 10	8.5%
落 石	15	0.8%	7	0.4%	+ 8	114.3%
雪 崩	5	0.3%	7	0.4%	- 2	-28.6%
落 雷	0	0.0%	1	0.1%	- 1	-100.0%
悪 天 候	18	1.0%	37	2.3%	- 19	-51.4%
有 毒 ガ ス	1	0.1%	0	0.0%	+ 1	
野 生 動 物 襲 撃	44	2.4%	33	2.1%	+ 11	33.3%
不 明	43	2.4%	64	4.0%	- 21	-32.8%
そ の 他	82	4.5%	47	2.9%	+ 35	74.5%
合 計	1,821		1,602		+ 219	13.7%

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成22年 態様別山岳遭難者数(中高年)の割合



態様別山岳遭難者数(中高年)の比較(前年対比)

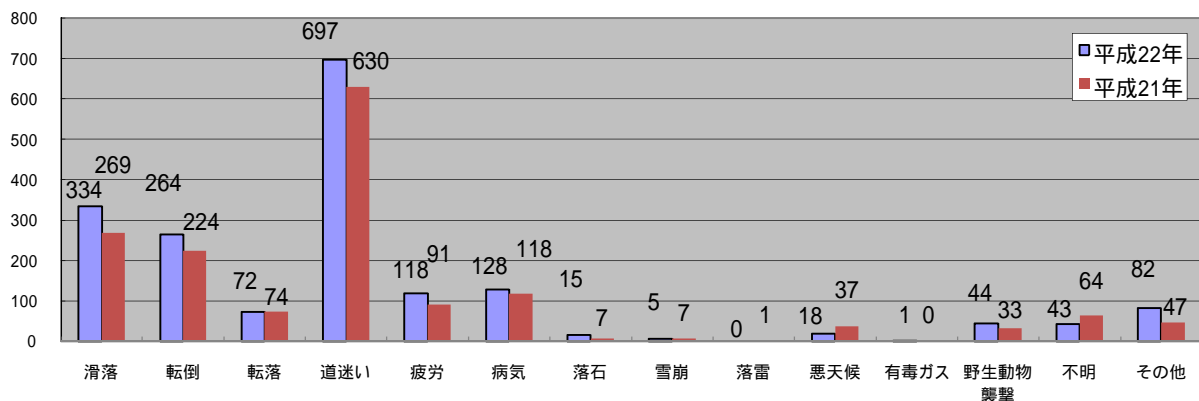


表8 年齢層別山岳遭難者数

	平成22年		平成21年		増減		
	人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率	
15歳未満	111	4.6%	96	4.6%	+ 15	15.6%	
15～19	70	2.9%	53	2.5%	+ 17	32.1%	
20～24	72	3.0%	57	2.7%	+ 15	26.3%	
25～29	80	3.3%	80	3.8%	± 0	0.0%	
30～34	117	4.9%	102	4.9%	+ 15	14.7%	
35～39	124	5.2%	95	4.6%	+ 29	30.5%	
中高年	40～44	129	5.4%	103	4.9%	+ 26	25.2%
	45～49	125	5.2%	98	4.7%	+ 27	27.6%
	50～54	132	5.5%	145	7.0%	- 13	-9.0%
	55～59	237	9.9%	216	10.4%	+ 21	9.7%
	60～64	358	14.9%	297	14.2%	+ 61	20.5%
	65～69	348	14.5%	301	14.4%	+ 47	15.6%
	70～74	243	10.1%	232	11.1%	+ 11	4.7%
	75～79	149	6.2%	128	6.1%	+ 21	16.4%
	80～84	74	3.1%	56	2.7%	+ 18	32.1%
	85～89	20	0.8%	23	1.1%	- 3	-13.0%
90歳以上	6	0.3%	3	0.1%	+ 3	100.0%	
不明	1	0.0%	0	0.0%	+ 1	-	
計(人)	2,396		2,085		+ 311	14.9%	

注：中高年とは、40歳以上の者を示す。

平成22年 年齢層別山岳遭難者数の割合

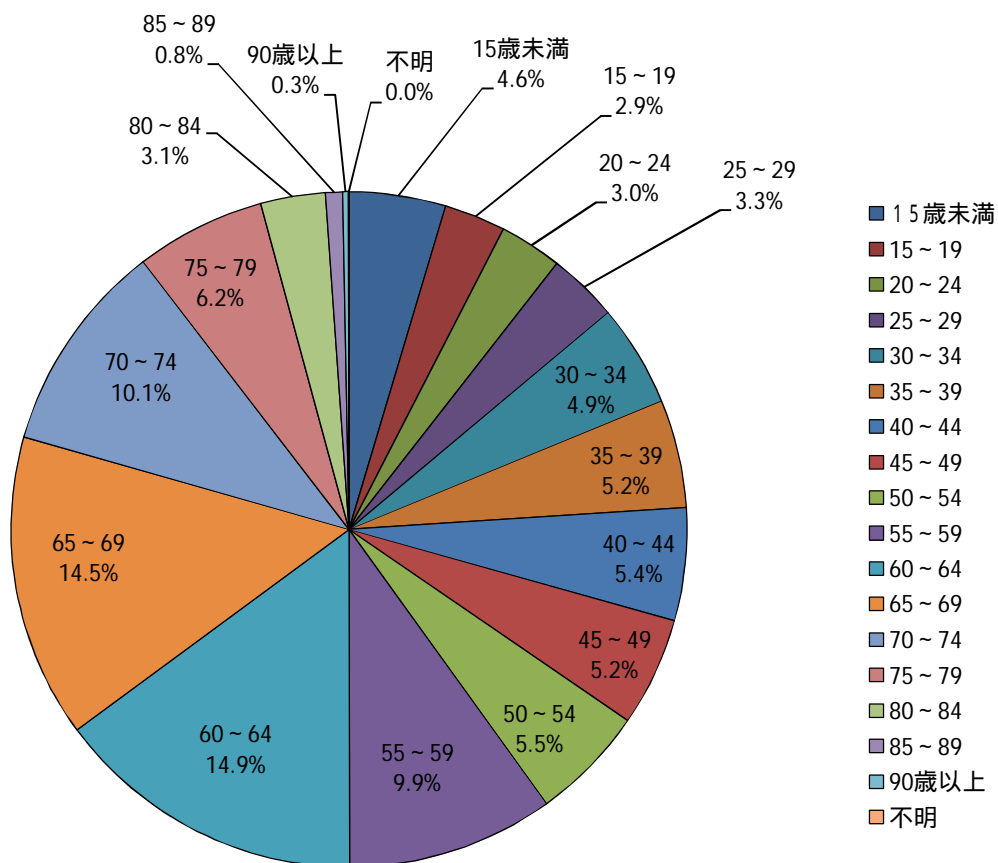
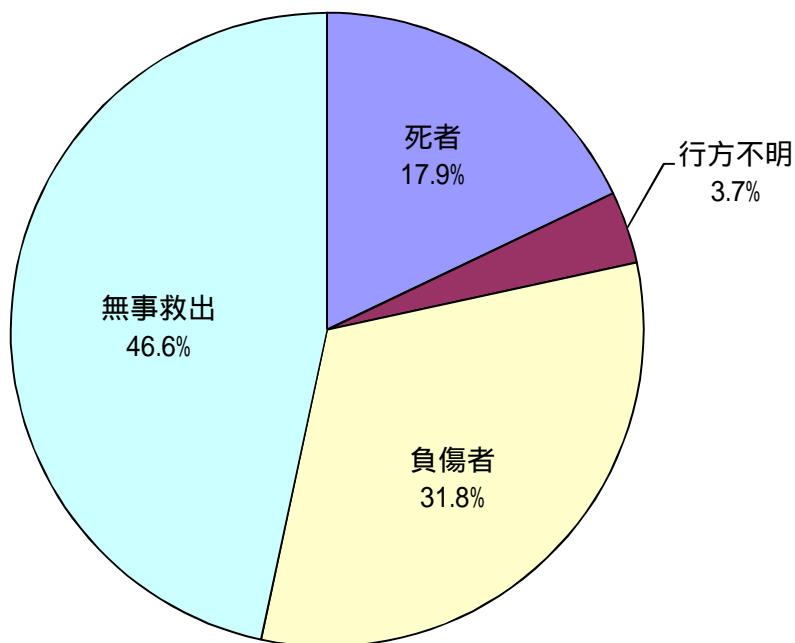


表9 単独登山者の山岳遭難発生状況(人員)

			平成22年		平成21年		増減	
			人員	構成比	人員	構成比	人員	増減率
遭難者	死者・不明者	死者	141	17.9%	128	19.2%	+ 13	10.2%
		行方不明者	29	3.7%	32	4.8%	- 3	-9.4%
		合計	170	21.6%	160	24.0%	+ 10	6.3%
	負傷者		250	31.8%	213	31.9%	+ 37	17.4%
	無事救出		367	46.6%	294	44.1%	+ 73	24.8%
	合計		787		667		+ 120	18.0%

平成22年 単独登山者の
遭難発生状況の割合



[参考]
平成22年 複数登山者の
遭難発生状況の割合

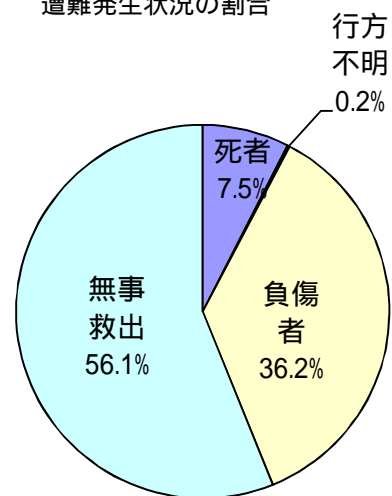
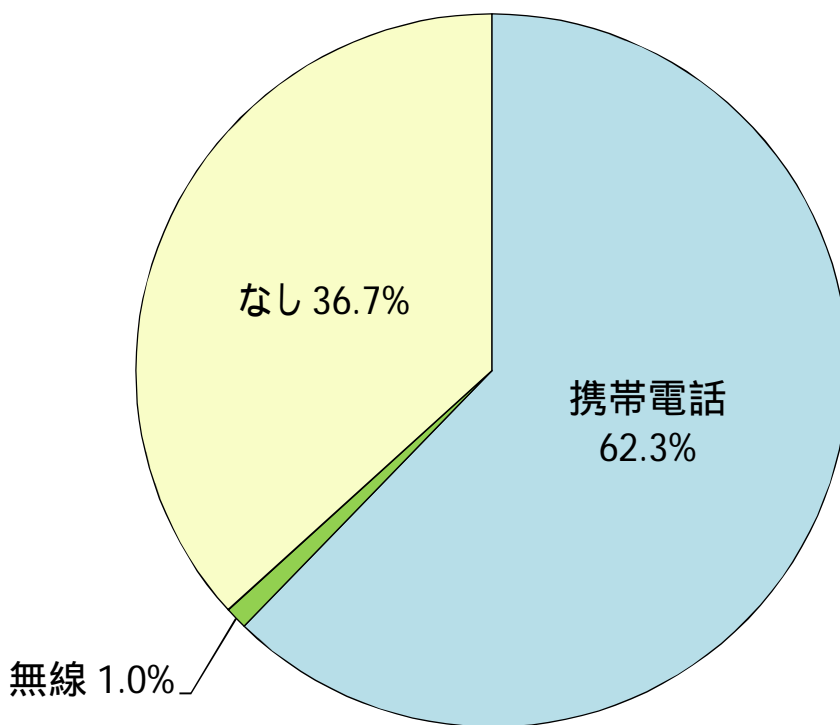


表10 遭難件数に占める通信手段の使用状況

		平成22年		平成21年		増減	
		総数	構成比	総数	構成比	総数	増減率
発生件数(件)		1,942		1,676		+ 266	
使用	携帯電話(件)	1,209	62.3%	1,003	59.8%	+ 206	20.5%
	無線(件)	20	1.0%	20	1.2%	± 0	0.0%
	合計(件)	1,229	63.3%	1,023	61.0%	+ 206	20.1%
未使用(件)		713	36.7%	653	39.0%	+ 60	9.2%

平成22年 通信手段の使用状況



携帯電話・無線機併用は、無線機に計上。